

書評

松村理司, 酒見英太 編
京都 GIM カンファレンス 執筆
診断力強化トレーニング
What's your diagnosis?
東京医科大学教授・医学教育学
大 滝 純 司

これは医学書院の月刊誌『JIM』の連載企画である「What's your diagnosis?」が再編集されて単行本になったものです。優れた研修医教育で全国的に知られる京都の洛和会音羽病院で毎月行われている、京都 GIM カンファレンスで検討された症例が、その連載の基になっています。総合診療の業界では、既に伝説になっている有名な症例検討会です。連載には、重症例や複雑な症例、そして珍しい症例や診断に苦慮した症例が、特にその診断の過程がリアルに紹介されていて人気があります。

『JIM』には、基本を重視し、頻度の高い症候や健康問題に対する標準的な診療を分かりやすく学ぶのに適している、初心者向けの内

容が多いと思いますが、この連載の症例検討は違います。症例の臨床的な情報がひと通り提示されたのちに、「What's your diagnosis?」と考えられるのですが、いつもかなり難しく、私はなかなか診断が当たりません。

頻度の低い、珍しい診断を真っ先に考えてしまう様子を揶揄して「蹄の音を聞いてシマウマを思い浮かべる」という意味を込めて「シマウマ探し」と言うそうです。この本に載っているのがそのようなシマウマ的な症例ばかりということではありませんが、普通の茶色い馬のような症例はほとんどありません。珍しい疾患だけでなく、頻度の高い疾患の珍しい経過も含まれています。何が「手がか

り」、「めくらまし」、「決め手」になったのか、それも明示されていて教訓的です。黒い馬も白い馬も、そして時々シマウマもいるということが実感できます。ありふれた症例を診ることが多い日常の診療では、頻度の高い普通の馬のような疾患を学ぶことは容易ですが、それらの中に潜んでいる珍しい馬を見落とさないためにも、これは貴重な症例集です。

この連載の特徴の一つが、毎回付けられているユニークな題名です。例えば「ベリーベリー・ショート」、「Mはどこ?」、「目覚めはブラックコーヒーで?」といった具合に、謎かけになっています。診断を考える際のヒントになっています。単行本でもこれが踏襲されていて楽しめます。

何はともあれ、診断のついていない患者さんを診ることが多い医師にはお勧めだと思います。

〔B5 頁228 2008年 定価
3,990円(本体3,800円+税5%) 医学書院刊〕